Mamiya Gallery

Vol. 9
2005
SPRING/SUMMER

Photo／Takao Maruyama

マミヤカメラクラブ会報誌

総評

MCCフォトコンテストも10回という節目を迎え、選者としてはこんなに嬉しいことはありません。回を重ねるごとに中判ならではの機能と大画面の魅力を生かした、いわゆるMCC カラーが出来てきたのはなによりです。その反面、撮り方がワンパターンになっているケースがあるのも否めません。
写真に限らず身についたスタイルを変えるのはなかなか難しいことです。それならば、スタイル(得意技)を増やす事を考えたらどうでしょうか。
カメラやレンズを変えるのもひとつの手ですし、新しい表現方法を体得するキッカケにもなります。そうした事をこれからも皆様とご一緒に考えていければと思っています。

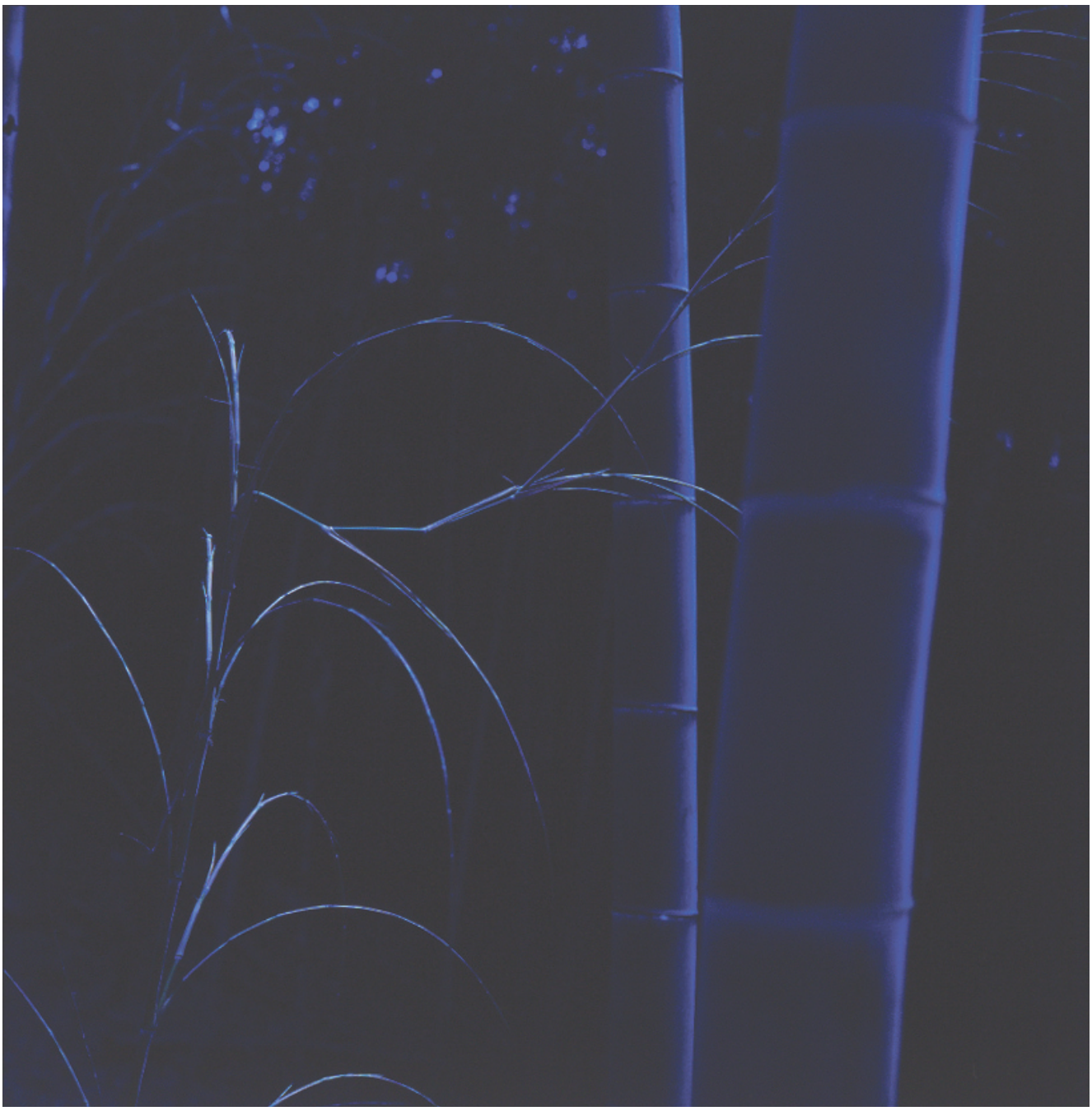
日本写真家協会会員　　原　弘男

金賞

『湖畔の夜明け』　星野　勝彦(群馬)

安定感のある画面構成のセンスには脱帽しました。写真ならではの緻密な描写で夜明け前の神秘的で、ちょっと怖いような湖の感じを見事に表現しています。

RB67プロS C50㎜F4.5 f22 1/4秒 RDPⅢ SL



銀賞
『竹模様』 尾澤　宏昭（東京）

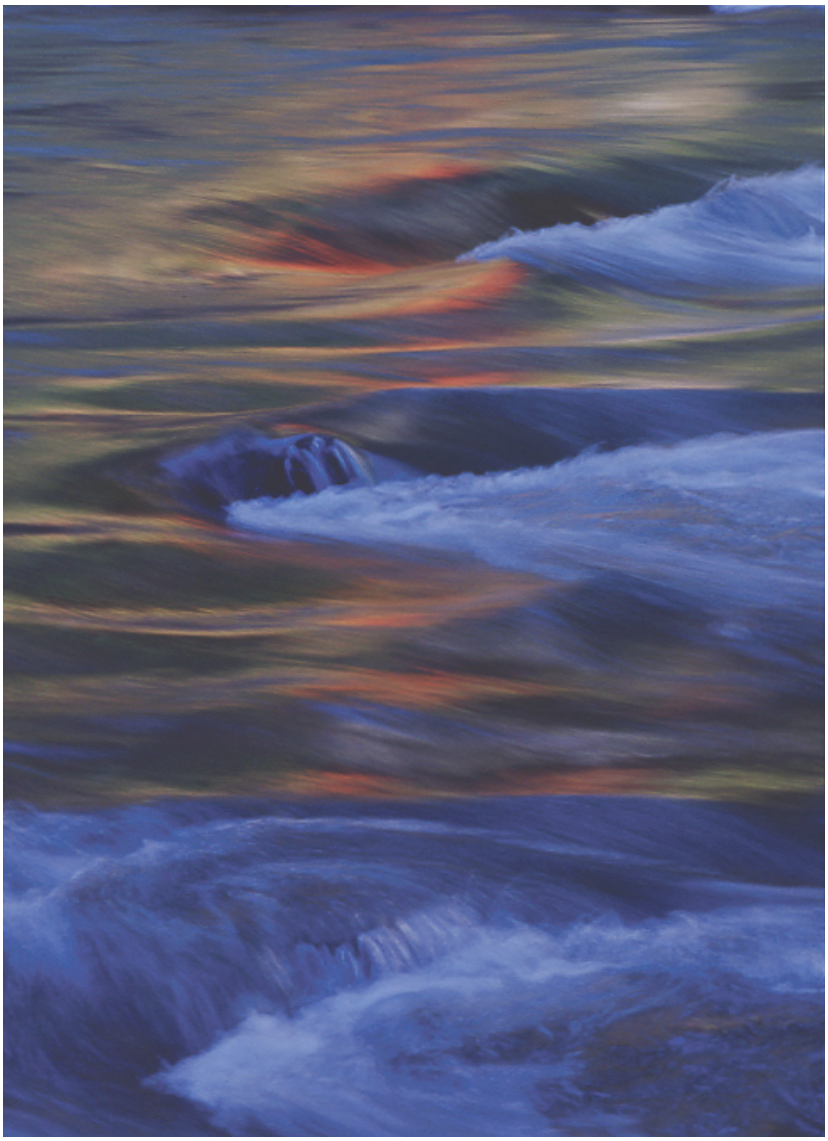
タングステンフィルムとアンダーな露出が効果をあげて、絵画を思わせるような独特の雰囲気を醸し出しています。この仕上がりのイメージを予測した技量と感性は見事です。

マミヤC330 105mmF3.5 f8 30秒 64Tプロ

銀賞
『残　照』　荒川　信利（埼玉）

竜巻のように見えるダイナミックで不気味な雲ですね。この雲だけに的を絞った事と、刻々と変化する雲の最高の瞬間をとらえたシャッターチャンスが良かったです。

マミヤ7Ⅱ　N80mmF4L　f8　オート－0.3補正　RVP100



銅賞 『錦の流れ』 松野 敏秀（東京）

紅葉の映り込みが水の流れで微妙な色に変化している様が綺麗です。瀬の動と静の対比もリズミカルで良いと思います。シャッタースピードの設定が的確でした。

645プロTL ULD C105-210㎜F4.5 f32 1/2秒 E100VS

銅賞
『期　待』 金田　大樹（長野）

オリジナルポジでは一見魚眼レンズには見えませんでしたが、雲が丸くデフォルメされているところなどに魚眼の面白さが出ています。高原野菜畑の広がりをレンズの特性を生かしてうまく表現しています。

RB67プロSD フィッシュアイC37㎜F4.5 f11 1/60秒 RVP UV

銅賞
『Rock wave』 小野　望（神奈川）

大変にシャープで岩の質感が良く出ています。こうした被写体はやはり中判カメラの独壇場でしょう。自然の造形の面白さを、超広角レンズでさらにデフォルメし作品に昇華させている点を評価しました。

マミヤ7 N43㎜F4.5L f32 1/8秒 E100VS

入選
『晩秋の朝(乗鞍)』 川野　豊彦(広島)

葉の落ちたダケカンバの白い幹、この樹林帯独特の景観をうまく表現しています。ただよく見ると黄葉や紅葉がまだ残っているので、もう少し明るめの露出にした方が良かったのではないでしょうか。

645プロTL ULD C105-210㎜F4.5 f22 1/2秒 RVP100

入選
『秋　彩』 島貫　喜重(千葉)

非常にシャープで中判カメラの魅力あふれる作品です。青空の反映や水草の緑が鮮やかで、フィルム特性を利用した色調が効果を上げています

マミヤ7Ⅱ N80㎜F4L f22 1/30秒 FORTIA

入選
『なごみ』　岡　泰夫（京都）

まるで映画のワンシーンを見るようなドラマを感じます。富良野の朝はよく霧が出ますが、霧が晴れるスピードというのは意外に早いものです。シャッターチャンスを見事にとらえています。

マミヤ7 N150mmF4.5L f22 オート RDPⅢ

入選
『飛び翔る』　前田　吉之助（東京）

鳥の羽ばたきのように見える面白い雲ですね。頂上が隠れてしまったのが残念でした。ローキーだからこそ雲が強調されたのでしょうが、すこし露出が暗すぎたかも知れません。

マミヤプレス 100mmF3.5 f16 1/4秒 RVP UV

入選

『初冠雪』 飯塚 光男(東京)

初雪の淡いイメージを、岩のアップでうまく表現しています。足場的には無理だったのかもしれませんが、もう少しカメラアングルが高いと遠近感が出てスケールの大きさが増したと思います。

645プロTL C55-110mmF4.5N f32 1/15秒 RVP100

入選

『春の日差し』 松永 功(埼玉)

残雪とブナの新緑、雪国の春の風物詩をベストな光線状態で美しくとらえています。雪面もこの時期にしては大変きれいで、作者の観察眼の鋭さに関心しました。

645プロ C55mmF2.8N f22 オート RVP

入選

『暁 光』 荒川 利夫(栃木)

燃え上がる炎のようなイメージの朝焼け、まるで野焼きを見ているようです。地面が入ると現実味が出てしまうので、画面下をカットした方が狙った意図が強くなります。

M645 1000S ULD C105-210mmF4.5 f11 1/2秒 RVP

入選　『霧に煙る』　片山　晴夫(埼玉)

霧の効果で静かな山里の雰囲気が良く出ています。朝日が射すとイメージが一変するのがこの場所の魅力ですが、こういった感じもかえって新鮮に感じます。

645プロTL　C210㎜F4N　f16　オート　RVP

入選　『春　彩』　井川　クキ子(東京)

新緑が鮮やかで流れの描写もいいですね。ツツジも程よいアクセントになっています。ただ、わずかにブレがあります。絞り優先で良いのですが、シャッタースピードは常に意識し、ブレない工夫をするように心掛けて下さい。

645AFD　AF55-110㎜F4.5　f32　オート　RVP100

入選　『樹林の花』　太田　秀男(長野)

白樺の白と色とりどりのユリの花との対比がとてもきれいです。アングルをもう少し上げると地面が少なくなって画面がスッキリします。天地をカットして横長にするのも一案でしょう。

RB67プロS　KL90㎜F3.5L　f22　1/8秒　RVP

MCC Photo Contest 11

写真の醍醐味、多彩な個性の競演…
それがMCCフォトコンテスト。
第11回の応募期間は4月1日(金)～5月31日(火)です。
写真テーマは自由です。ふるってご応募下さい。

「ススキ輝く三原山・大島撮影会」コンテスト　入賞作品

総評

この伊豆大島撮影会は今までの東京発の宿泊撮影会では最も近い所だったでしょう。なにしろジェット船で2時間弱で行けたのですから･･･。この大島を、ちょっと趣の変ったカメラサイトとして選びました。山あり、海あり、野原あり････ですが、火山島という土地柄から近景と遠景の組み合わせ、かねあいが、いわゆるふつうの風景と異っているのでミステリーツアーなみにとまどった方もおられるようです。
しかし対象としては誠に魅力的、考えてみれば“なんでもあり”というところで楽しまれたことが作品を通じてわかります。応募された作品を拝見して私も楽しませて戴きました。

日本山岳写真協会会長　川口　邦雄

金賞　『噴石の跡』　阿部　勝彦(宮城)

広大な風景を山体の「溶岩流」というテーマで巧みにひきしめています。ススキの黄に浮き出た溶岩流の中に点々と生命の復活がみられるのも感動的です。赤い屋根と鳥居は神社で、あの大噴火の折奇跡的に焼失をまぬがれたとのこと。上手にポイントとしてとりいれています。

645プロ　A200㎜F2.8 APO　f11　10秒　RVP　テレコンN2倍

銀賞　『火　口』　佐久間　弘(東京)

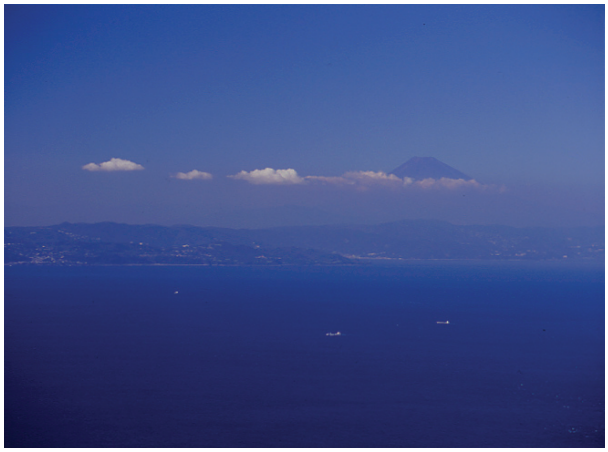
まさにそのものズバリ。荒々しい火口壁がトップライトに近い光で、岩壁部の影も鋭く描写されているのが魅力的です。250㎜という写角でのフレーミングが大変適切でした。(マミヤプレスはまだ健在ですね)

マミヤプレス　250㎜F8　f32　1/60秒　RVP　UV

銅賞　『溶岩を洗う』　磯崎　和夫(埼玉)

この折はあまり光線の状態、メリハリがよくなかったのですが、それでも天空光の反射と崩れる波頭がとてもダイナミックに表現されています。狙い目の確かさ、という事でしょうか。黒い熔岩の質感がツブれていないのも貴重です。

RZ67プロ　Z250㎜F4.5W　f22　オート　E100VS



JTB賞　『雲流る』　松野　敏秀(東京)

何とも広々とした空間表現です。あの折の実感をまことによく伝えてくれます。この広々とした大らかさ表現のためには、やはりこの位の空、海、そして小さな点景の配置がたしかに必要でした。

645プロTL　ULD C105-210㎜F4.5　f8　オート　RVP100　PL

入選　『反照の庭』　山田　傅（岐阜）

海面の黄金の反映を“庭”とみたてました。よくルーペで見るとかなり多くの船がいるのが画面を生き生きとさせています。もう１段フレーミングを狭くみたかったところです。

645AF　AF ULD105-210㎜F4.5　f11　オート＋1.0補正　RVP100

入選　『陽の残り』　早川　一三夫（愛知）

あのみごとだった落日の時の作品です。空の雲がそれぞれの表情をみせているのを上手にとらえています。海面をもうちょっと明るめに仕上げるとなお引き立ったでしょう。

マミヤ7Ⅱ　N80㎜F4L　f22　1/60秒　RVP100

入選　『大島の落日』　古関　良一（東京）

“あの夕焼け”を雲のハイライト強調で魅力的に表現しています。雲の表情のデリケートさがみどころの作品です。

645AFD　AF APO300㎜F4.5　f9.5　1/60秒　FORTIA

入選　『落　日』　山口　孝（東京）

ハイライト基準の露出のために微妙な雲のトーンが多様に描き分けられてみえています。しかし、少々アンダーに過ぎたので海面などが不明瞭なのが残念です。プリントの折は明るめに仕上げて調子を出してみたいところです。

RBプロS　KL180㎜F4.5L-A　f8　1/125秒　RDPⅢ　UV

入選　『ススキの小路』　荒川　信利（埼玉）

ススキの穂のゆらぎが何ともいえずよい雰囲気を演出しています。右下の暗い部分も秋の陽ざしが感じられるし、道の黒々とした色はまぎれもなく、火山・大島三原山のポイントですね。

645AFD　AF55-110㎜F4.5　f32　オート＋0.3補正　E100VS

入選　『夕　景』　星野　幹雄（神奈川）

特徴のある姿をしていた雲を、全体像としてとらえた作品です。この雲、もうちょっと赤くなったときがありましたが、そのチャンスをみたかったところですね。

Newマミヤ6　G50㎜F4L　f11　1/4秒　RVP100

丸山　貴央

Takao Maruyama

私の作品は、デジタル処理は一切行いません。ポジフィルムで撮影し、オリジナル現像液を使いネガ処理したものをプリントしています。

「花の一生の最も美しく、最もパワフルな瞬間をとらえたい。それが僕に与えられた仕事のようにさえ感じる。始まりはいつも１本の花との出逢いからである。たくさんある花の中から僕に語りかけている１本を選ぶ。自然の法則にしたがうかのよう、日の出とともに仕事にとりかかる。朝の花には最も生き生きとした色があるからだ。朝の澄みきった空気をキャンバスに花と向き合い対話が始まる。そして、光を絵の具にカメラを絵筆に見たて心の中に自然とわき上がる自分の色にしあげていく。絵でもなく、写真でもない。今までにないものを作りたい。僕は花のパワーをもらい、写真を見ている皆にもそれを伝えたい。」以上、写真集 “FIORI”「僕の写真ができるまで」より。

私は普段、645Pro、RZ67Ⅱ、マミヤ7Ⅱの3台のカメラを使っています。今回掲載の作品は645Proで撮りました。ホールディングがよく、レンズのシャープさがとても気に入っています。作品つくりの中では、フレーミングや空気感といった、その時その時の瞬間を捕えることを大切に考えています。なぜなら、コンピューター処理やトリミングといった、いわゆる後で手を加える作業を一切しない為です。常に「その瞬間」をシャッターで切り取ったものこそが完成された作品であると考える為カメラとの相性の良し悪しはとても重要なポイントになります。　そんな時に、この645ProやRZ67Ⅱは私の願いを叶えてくれます。645Proは機動性も良く35mmのカメラと同様の身軽な感覚で撮ることができ、フレーミングも自由自在にあやつれます。RZ67Ⅱは縦位置、横位置が瞬時に変更可能なのでスピーディーに大切な瞬間を逃さずシャッターを切ることができます。利便性で描写性ともに大変長けているカメラです。

最近では Mamiya7Ⅱで35mmパノラマアダプターを使用し、作品つくりをしています。
とてもシャープなレンズなので私のこだわっている空気感という、本来目に見えないものの表現が、思い通り満足のいく形で描写されていきます。
またいつか近い将来、この紙面上で皆様にお逢いできることを楽しみにしております。

1969　神戸生まれ
1994　関西大学文学部卒業
1995　写真家、高橋正男氏に師事。
1998　渡伊。ミラノを拠点にフリー写真家として活動を始める。
　　主にフィガロ・ジャポン誌、マリ・クレール
　　・ジャポン誌への取材、ミラノ・コレクション撮影等。
2000　花の作品 ‘Fiori’ の制作活動を始める。
2005　現在、大阪とミラノで仕事をする。

主な展覧会

2000　Good Day Café　東京
2001　Tearose　ミラノ
　　Vetrina Bassani　ミラノ
　　Posto di conversazione　ミラノ
2002　カトリーヌ・メミ　東京
2003　アートプランニングルーム・青山　東京
　　在ミラノ日本国総領事館　ミラノ
　　ビエンナーレ、アルセナーレ地区会場　ヴェネツィア
　　（マミヤ・オーピー協賛）
2004　Galleria aborigena　ミラノ
　　フィエラ見本市会場　ミラノ

出版物

『Fiori』　Takao　Maruyama　（2003年　メメックス出版）

海外常設ギャラリー

Galleries

Italiy

Galleria aborigena
Corso Monforte,39
20122 Milano
Italiy
Tel +39 02 78 21 66
www.aborigena.it

Suisse

Krisal Galerie
25, rue du Pont-Neuf
1227 Geneve
Suisse
Tel +412 2301 2188
info@krisal.com
www.krisal.com

645PRO　C80㎜F2.0N　中間リング使用

表紙　645PRO　C80㎜F2.8N　中間リング使用

645PRO C80mmF2.8N 中間リング使用

645PRO C80mmF2.8N 中間リング使用

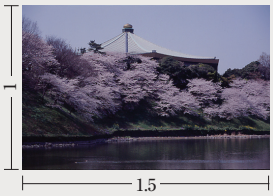
中判カメラのフォーマットとカメラタイプ「6×7cm判カメラ篇」

講師　山崎　正路

カメラフォーマットの違い

カメラを習い始める時、ほとんどの人が35ミリ判カメラから入るので 1:1.5 の横位置の対角に慣れています。またノートリミングで撮影するように教えられます。勿論画面全体を最大に使えるノートリミングが良いのですが、中判カメラは高画質を求められるファッション写真やコマーシャル撮影でよく使用されます。そのような印刷物が前提の撮影では色々な対角の写真を要求されるので、プロの現場ではトリミングすることはあたりまえの作業です。あらかじめポラホルダーなどを用いてデザイナーやクライアントと対角を決めたりするのです。
カメラのタイプで縦横比が変わる中判カメラでは、その被写体に合ったフォーマットを選ぶ事、又、時にはトリミングを前提に撮影する事も重要になってきます。

35ミリ判カメラのフォーマットは
24㎜×36 ㎜で 1:1.5 の縦横比率です。
35ミリ判カメラしか使わない人は
この対角に慣れているので、
中判カメラを使い始めると対角に戸惑うようです。



35mm判　原寸大

中判カメラはフォーマットで対角が変ります。
過去には中判カメラでも、マミヤプレスなどが代表する多くの6×9㎝判カメラが使われました。6×9㎝判カメラの縦横比率は 1:1.5で35ミリ判と同じ対角です。
風景写真の愛好者も多いカメラでしたがフイルムの画質が進歩したことやカメラ自体が大型だった為、ほとんど姿を消してしまいました。

6×9cm判　原寸大

6×4.5 ㎝判の縦横比率は1:1.4で
6×7 ㎝判のカメラでは 1:1.25 になります。

6×4.5cm判　原寸大

6×7cm判　原寸大

以上の事をふまえて今回は6×7㎝判カメラを考えてみましょう。
6×7㎝判カメラを横位置で使用する場合、山岳写真などではバランスの良い安定したフォーマットであることがわかります。山の高さと横の広がりがちょうど良いバランスだからです。

水平線など横の広がりが強い風景では思い切って35ミリ判の対角にすることを意識して上下をトリミングしてみましょう。画面の面積が大きいので多少のトリミングでは35ミリ判と違い画像が悪くなることもありません。

左右の広がりのある写真は6×7の対角では広がりを感じさせるのは難しい事がありますが、縦位置ではおさまりのいい写真が撮れることになりバランスの良い写真になります。

カメラタイプ「RZ67プロⅡD篇」

6×7cm判の代表格RZ67プロⅡDの基本セットはウエストレベルファインダーです。このファインダーは折り畳みが出来るので軽量でコンパクトなこと、拡大ルーペを内臓しているのでピント合わせがしやすいことなどが特徴です。左右逆像になるので動体撮影が難しい事や、露出計が内臓されてないなど不安な人は、アイレベルのAEプリズムファインダーにのせ変えると解決できます。
撮影者や被写体、スタジオか屋外などでどちらが良いとはいえませんが、組み替えることでいろいろな被写体に対応できるシステムカメラです。フィルムホルダーの交換により6×4.5やデジタルバックも使用可能です。

ウエストレベルファインダー装着時

AEプリズムファインダー装着時

RZカメラはレボルビングバックという機能を備えています、カメラの位置はそのまま、フィルムホルダー部分を回すことだけで縦横を素早く切り替えることが出来タテ位置でもヨコ位置でも同じ操作性で扱えます。
レボルビングバックのカメラは雲台を傾ける必要がない為三脚上で安定したバランスを保つことが出来ます。レンズシャッターの静粛性と合わせて、ブレには効果的なカメラと言えます。またウエストレベルはハイアングルに弱いという欠点がありますが、レボルビングバックを組み合わせるとローアングルからハイアングルまで幅広くカバーすることが出来ます。
カメラを縦位置に傾けてレボルビングも縦の位置にする事で横位置のハイアングル撮影が可能になります。この場合しっかりした三脚を使いカメラブレに注意してレリーズを使用して下さい。カメラバックなどを重石にして、重心を下げて安定させることも効果的です。ファインダーの向きなど、慣れが必要になるかも知れませんが、撮影の幅が一気に広がります。

ウエストレベルファインダーではハイアングルでの撮影が難しい

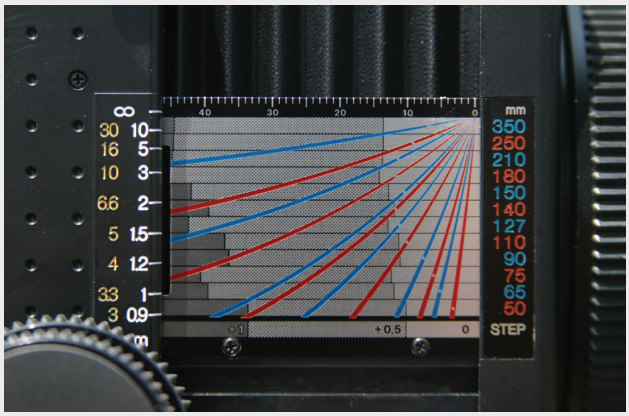
カメラを縦位置に傾けて縦位置にレボルビングする事で、
結果ハイアングルでの横位置撮影が可能

AEファインダーと単独露出計／露出補正

AEプリズムファインダーの内蔵露出計を使用する場合は、蛇腹繰り出し等による露出倍数に対する露出補正は必要有りませんが、色に対する露出補正が必要になります。一方ウエストレベルファインダーなどで単体露出計を入射式使用する場合、色に対する補正は必要有りませんが、近接撮影による蛇腹繰り出し量に対する露出補正が必要になります。

入射式露出計。被写体に近づける場合は、カメラに光球を向けて計る

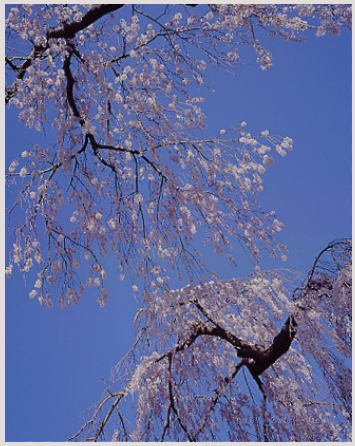
近接撮影で、蛇腹を繰り出すとレンズとフィルムの距離が遠くなり、露出を余計にかける必要があります。
単体露出計使用時など、RZでは側面にレンズごとの補正値が解るグラフが有ります。棒グラフのように白、薄いグレー、濃いグレーと色分けされている目盛で補正量を読みとります。同じ露出補正でも、皆さんがよく行う被写体に対する補正とは意味が違うのでよく理解して下さい。



マミヤ7/7Ⅱ専用レンズ

N65mm F4L

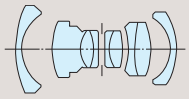
常用レンズとして使いたい広角レンズ



マミヤ7シリーズ用のN65mmF4Lレンズは35ミリ判カメラに換算すると32mmになる広角レンズです。6×7cm版の画面比なのでもっと広角に感じるかも知れません。レンズ構成図を見てお分りの通り、このレンズは前後対称型の作りになっています。一眼レフと違い、マミヤ7/7Ⅱにはミラーボックスがない為無理のないレンズ設計が出来ます。ですから6×7cm版の広角レンズでありながら重量380gと驚異的な軽量化が図れ、またシャープで高コントラストでありながらボケ味が自然で柔らかいという描写が得られます。

ファインダーもボディー内蔵のブライトフレームで使用できるためスピーディーな撮影にも対応します。静粛なレンズシャッターとボディーのホールディングの良さで手持ち撮影にも考慮されています。

じっくりと撮影する風景写真から手軽なスナップ、大人数の集合写真まで幅広く対応する万能なレンズ。ちょっと出かける時のお供として、常用レンズとして使いたくなる１本です。



レンズ構成	5群9枚
画角	69°
最小絞り	22°
35ミリ換算値	32mm
最短撮影距離	1m
最短撮影倍率	0.078
最短撮影範囲	719×892mm
フィルター径	58mm
フード	バヨネット式
長さ×直径（全長）	65×67mm（86mm）
重量	380g

マミヤ協賛 撮影会＆セミナー

マミヤカメラクラブ員に限らず、どなたでも参加できます。

～大判をマスターしよう！～ 基礎を押さえる大判写真

主　催：大中判カメラ普及協会
日　時：2005年4月23日(土)13:00～17:00
講　師：メーカーインストラクター
参加費：4,000円
開催地：JCIIビル会議室（東京・半蔵門）
問合せ／申込：03-3222-6622

～残雪の乗鞍岳とミズバショウ～ 新緑の乗鞍岳撮影会

主　催：クラブツーリズムカルチャー旅行センター
日　時：2005年5月10日(火)～11日(水)一泊二日
講　師：花畑日尚先生
参加費：31,800円
宿　泊：休暇村乗鞍高原　　問合せ／申込：03-5323-6990
備　考：マミヤカメラの貸出しあり。新宿より貸切バス

中判カメラで鎌倉スナップ！

主　催：大中判カメラ普及協会
日　時：2005年5月14日(土)レクチャー＆撮影
　　5月21日(土)作品講評
講　師：田村彰英先生　　参加費：8,000円
開催地：14日 鎌倉鶴ヶ岡会館／21日 JCIIビル会議室(東京・半蔵門)
問合せ／申込：03-3222-6622
備　考：中判カメラの貸出あり。120フィルム１本付。
　　１本分の現像・14日の昼食付

新緑とレンゲツツジ咲く八千穂高原・白駒池撮影会

主　催：白駒荘／ロッジ・エル・ケーナ
日　時：2005年6月11日(土)～12日(金)一泊二日
講　師：秦達夫先生
参加費：26,250円・新宿発／18,900円・現地集合
宿　泊：ロッジ・エル・ケーナ
問合せ：ロッジ・エル・ケーナ　TEL 0267-88-4567
　　白駒荘　TEL 090-1549-0605(小屋直通)
備考：マミヤカメラの貸出しあり　新宿より貸切バス

第５回　花畑日尚先生と尾瀬を歩く撮影会

主催：原の小屋
日時：2005年7月2日(土)～4日(月)二泊三日
講師：花畑日尚先生
参加費：31,000円
宿泊：原の小屋
問合せ／申込：090-8921-8314(現地衛星電話)
備考：マミヤカメラの貸出しあり　現地集合

『ススキ輝く三原山　大島撮影会後記』後記　2004年10月15日（金）～16日（土）　講師　川口邦雄先生

伊豆七島に超高速ジェット船が就航し、かつては東京から最短でも４時間以上かかっていた伊豆大島までの所要時間がわずか１時間45分になった。

四方を海で囲まれた島ならではの景色、世界有数の火山三原山。あっけないほど近くなった島風景の撮影に一同心躍らせて竹芝桟橋を出発した。ジェット船は新幹線並の乗り心地で海面を滑るように走る。少しだけ波が高かったので通常より揺れたが船酔いなどというレベルではない。「快適、快適。」と思っているうちに大島が目の前に迫ってしまった。

大島の表玄関、元町港はやはり波が高く使用できず、波裏の岡田港で下船。バスに乗り宿泊地の大島温泉ホテルで熱海港から来る参加者と合流。昼食を取った後はすぐに三原山を目指す。快晴ということもあり三原山を彩るススキは黄金に輝き、近付くと光を透かした穂の銀色が目に眩い。撮影しながら登山道を歩いているうちに頂上まで来てしまった。雄大な火口、遠くに見える本土に浮かぶ富士山などいくらでも撮影できる。火口一周コースを行くとまだ高い太陽が伊豆諸島をシルエットにしながら海を照らしている。その輝きの色は筆舌に尽し難く、カメラを構えるのも忘れてしまう程であった。

続いて夕景の撮影地「割れ目火口」にバスで移動。階段教室のような遊歩道に並んで夕暮れを待つ。ゆっくり沈んでくる太陽、エキストラの雲も準備万端といった様子だ。太陽が沈む瞬間までが一つの区切りなら、今回のクライマックスはその後に待っていた。荘厳で濃厚な色の氾濫、見渡す限り紅と紫が空と海に渦巻いているような日没後の20分が瞬く間に過ぎて行く。また一つ心に残る風景が増えたようだ。

2日目は天候があまりよくなかったが、風光明媚な東海岸、断崖が続くトウシキの鼻などを撮影し再び岡田港へ。島名物のクサヤや明日葉などおみやげを買い込み、船で帰路についた。

海外撮影の前日にもかかわらず、博学で、楽しいご指導を頂いた川口邦雄先生ありがとうございました。

『河口湖冬花火　富士山撮影会』後記　2005年1月29日（土）～30日（日）　講師　小林義明先生

今更ながらではあるが、富士山は実に絵になる山だ。世界広しと言えどもこれほどシンボリックな山はないだろう。特に冬の雪をまとった姿は見ごたえがあり一度は撮影してみたくなる。その富士山のお膝元、河口湖では毎年１月から２月にかけて花火大会が開催される。富士山の撮影に来て花火も撮影できる、今回はそんな一石二鳥の撮影会である。

中央高速から富士五湖道路を経て河口湖に到着。現地で講師の小林義明先生と落ち合う。最初に目指した撮影場所は「白糸の滝」。現地に着いたとたん、生憎の雨模様だったが本降りにはならずしっとりとした雰囲気のある滝を撮影する。続いて夕景の撮影に精進湖に向かうが、時の経過と共に段々雨脚が強くなる。そこにあるはずの富士山も一切見えない。いつもなら意気消沈してしまう場面だが、どっこい今回は花火というメインの撮影が待ち構えている。

ゆっくり夕食を取りながら８時からの花火を待っていると、奇跡的に雲が割れて星が輝きだした。撮影は高台にある宿の屋上や部屋からでも撮れる。わずか30分の花火だが、寒空の下の撮影では丁度良い長さだった。　撮影後は小林先生によるミニ写真教室。近くの芦川村に居を構えた先生ならではの富士山周辺の写真や花火の作例を見ながら楽しい写真談議が夜遅くまで続いていた。

翌朝は山中湖での早朝撮影を予定していたが、雲で今一つ見通しが効かない。向かっているバスの中で雲を観察していた小林先生の判断で急遽精進湖に撮影地を変える。

はたしてこの変更が当たり、雲は山中湖側にたなびいており、精進湖から見る富士は神秘的でさえあった。一旦朝食の為宿に戻った後は「西湖野鳥の森」で氷柱を撮影する。暖かい日が続いていたので氷柱の出来は小さかったが、氷の結晶と太陽が生み出す光の色が見事だった。

続いてお札にも描かれている本栖湖からの富士山、鳴沢からの富士山など、昨日見えなかった分を取り戻すように撮影して行程が終了した。

やさしく丁寧なご指導を頂いた小林先生、参加者の皆さん、寒い所お疲れ様でした。

マミヤカメラクラブ撮影会予定

二輪草咲く新緑の上高地撮影会

日程：2005年5月27日（金）～29日（日）
場所：上高地
指導：花畑日尚先生
会費：新宿発　50,000円　新島々集合　43,000円
宿泊：西糸屋山荘　0263-95-2206
定員：40名

林明輝写真展「森の瞬間」

■富士フォトサロン福岡
2005年5月10日（火）～5月20日（金）
マミヤカメラクラブの講師としてもおなじみの林明輝先生の写真展が開催されます。

マミヤカメラクラブ会員ページ

マミヤカメラクラブのホームページに会員の情報ページを設けます。載せたい情報や、ご自分のホームページのリンクを貼りたい等、情報、ご要望を事務局までお寄せ下さい。
お問合せ / マミヤカメラクラブ事務局　〒338-8501 埼玉県さいたま市桜区西堀 10-13-1
TEL048-858-4826　FAX048-858-4843

MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

マミヤカメラクラブ

写真を楽しむ･･･、
学ぶ･･･、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。
写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。
マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。
講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。
撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。
宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック（点検･清掃）も受けられます。会員の方には、ポイント券制度･修理割引･オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金：1,050円（消費税込み）
会　費：4,200円（消費税込み）2年会費
手　続：入会のご案内（払込取扱票付き）を事務局にご請求下さい。

クラブ員特典

1.クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。
2.ポイント券制度
製品購入時、雑誌掲載時、コンテスト入賞時、入会時、各種イベント参加時など各々にポイントがつきます。このポイントを集めると素敵な商品と交換することができます。
3.修理代金の割引
ご愛用のマミヤ製品の点検･修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。
4.マミヤカメラクラブメール
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。
5.マミヤオリジナルグッズの特別斡旋販売
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。

入会のお申し込み、お問い合わせは
マミヤカメラクラブ･事務局
TEL.048-858-4826

マミヤカメラ･サービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。
また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質量感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。
また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター　TEL 03-3375-3701　FAX 03-3375-3703　営業時間 10:00～18:00
大阪サービスセンター　TEL 06-6541-5631　FAX 06-6541-5769　営業時間　9:00～17:00
土、日、祝日は休業

感動が宝もの Mamiya-OP マミヤ･オーピー株式会社
本社　〒338-8501　埼玉県さいたま市桜区西堀 10-13-1

商品・修理に関するお問い合わせは、サービスセンターへご相談下さい。

東京サービスセンター　〒160-0023　東京都新宿区西新宿4-5-6西新宿IKビル　TEL 03-3375-3701　FAX 03-3375-3703
大阪サービスセンター　〒550-0015　大阪府大阪市西区南堀江1-10-11西谷ビル　TEL 06-6541-5631　FAX 06-6541-5769

インターネット《ホームページ》http://www.mamiya-op.co.jp

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区　株式会社タック･カメラサービスセンター　：〒060-0053　札幌市中央区南3条東4丁目　TEL011-221-8507　FAX 011-232-3344
東北地区　MCプロテック　：〒983-0841　宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44森ビル202　TEL022-297-3846　FAX 022-297-3867
東海地区　山田テクニカルサービス　：〒496-0026　愛知県津島市唐臼町大門99　TEL0567-32-2708　FAX0567-32-3454
九州地区　山口カメラサービス　：〒816-0097　福岡市博多区半道橋1-13-20　TEL092-451-0655　FAX 092-451-0655

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしておりません。